



PHILIPS

Seminar



第57回 日本呼吸器学会学術講演会

The 57th Annual Meeting of The Japanese Respiratory Society

ランチョンセミナー 20

日 時：2017年4月22日(土) 11:50~12:50

会 場：第10会場 東京国際フォーラム ガラス棟5F (G510)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5-1

COPDに対するNPPVマネジメントを考える

座 長：近藤 康博 先生

(公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科 主任部長)

1. COPDの病態と急性期NPPVスキーム

演 者：西村 直樹 先生

(聖路加国際病院 呼吸器センター 呼吸器内科 医長)

2. COPD増悪に対するNPPVの導入と管理

～慢性期にどうつなげるか～

演 者：永田 一真 先生

(神戸市立医療センター中央市民病院 呼吸器内科 副医長)

参加方法：整理券の配布は行いません。直接会場へお越しください。 定員：100名

共催

第57回 日本呼吸器学会学術講演会

フィリップス・レスピロニクス合同会社

第57回 日本呼吸器学会学術講演会 ランチョンセミナー20

1. COPDの病態と急性期NPPVスキーム 西村 直樹 聖路加国際病院 呼吸器センター 呼吸器内科 医長

COPD増悪は息切れの増加、咳や喀痰の増加、胸部不快感・違和感の出現あるいは増加などを認め、安定期の治療の変更あるいは追加が必要になる状態、と定義される。一回のCOPD増悪で死亡率は数%から10数%にのぼると報告され、適切な診断と治療は公衆衛生上の重要な課題である。COPD増悪は多くの場合感染など気道の炎症がきっかけであり、気道の狭小化のためエアトラップが増加し、動的過膨張や呼吸筋の短縮化により一回換気量が減少し、低酸素血症ならびに高炭酸ガス血症を起こす。気道の狭小化は呼吸仕事量の増大も起こし、きっかけが感染症の場合の発熱と合わせて、酸素需要の増大や炭酸ガス産生増加を来し、これら全ての結果II型呼吸不全の増悪を来す。したがって治療はこの病態のいずれをも打ち消すものを投入すべきで、気道の狭小化に気管支拡張薬、気道の炎症と発熱にステロイド薬や抗菌薬、酸素需要の増加に酸素投与、エアトラップによる内因性PEEPには打消しPEEP、II型呼吸不全の増悪には人工呼吸やNPPVを実施する。本講演では、COPD増悪の病態や、内因性PEEPと打消しPEEPが一目でわかるよう図解する。病態を理解すればCOPD増悪の呼吸管理スキームにNPPVが不可欠であることが理解でき、豊富なエビデンスの理解も深まると思われる。具体的な治療内容も含めて概説したい。

学歴 平成7年3月 徳島大学医学部卒業
平成8年4月 徳島大学大学院医学研究科内科系専攻(内科学第三講座)入学
平成12年3月 徳島大学大学院医学研究科内科系専攻(内科学第三講座)卒業
医学博士(徳島大学)

資格・学会活動 平成7年4月28日 医師免許取得(医籍番号:第370922号)
日本内科学会認定内科医(2001年、第18344号)
日本内科学会総合内科専門医(2003年、第7752号)
日本呼吸器学会呼吸器専門医(2005年、第058159号)
日本がん治療認定医機構がん治療認定医(2007年、第07100105号)
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医(2011年、第1000088号)
日本呼吸器学会指導医(2012年、第000591号)
日本臨床腫瘍学会指導医(2015年、第1400033号)
呼吸器機能障害診断指定医(東京都)
American Thoracic Society, European Respiratory Society,
American Society of Clinical Oncology,
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会(代議員)、日本内科学会、
日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本肺癌学会、日本臨床腫瘍学会、
日本呼吸器内視鏡学会

職歴 平成7年6月 徳島大学医学部附属病院(研修医)(第三内科)に採用される
平成7年10月 徳島大学医学部附属病院(研修医)(救急部・集中治療部)に勤務換え
平成8年3月 徳島大学医学部附属病院(研修医)(救急部・集中治療部)退職
平成12年4月 徳島大学医学部附属病院(医員)(第三内科)に採用される
平成13年3月 徳島大学医学部附属病院(医員)(第三内科)退職
平成13年4月 東京都老人医療センター(医員)(呼吸器科)に採用される
平成15年3月 東京都老人医療センター(医員)(呼吸器科)退職
平成15年4月 聖路加国際病院(医員)(呼吸器内科)に採用される
平成18年6月 聖路加国際病院(医幹)(呼吸器内科)に昇任
平成20年10月 聖路加国際病院(副医長)(呼吸器内科)に昇任
平成22年5月 徳島大学医学部(非常勤講師)(呼吸器・膠原病内科)を兼任
平成26年5月 聖路加国際病院(医長)(呼吸器内科)に昇任
平成27年4月 聖路加国際大学(臨床教授)(研究センター)を兼任
現在に至る

2. COPD増悪に対するNPPVの導入と管理～慢性期にどうつなげるか～

永田 一真 神戸市立医療センター中央市民病院 呼吸器内科 副医長

安定期COPDに対して長期間NPPVを行うことにより予後が改善することが近年いくつかの臨床試験で示されているが、高二酸化炭素血症を伴うCOPD増悪後にNPPVを長期間使用することの有効性についてはまだ明確にされていない。いくつかの臨床試験において繰り返す増悪を防ぐことが示唆されているが、有効性を否定する結果も報告されている。本発表ではそれらのエビデンスについて整理するとともに、現在進行中の臨床試験についても紹介したい。さらにCOPD増悪後に長期間NPPVを使用する場合、有効性の高い患者選択、至適設定、導入の時期について考える必要がある。増悪期以外に高二酸化炭素血症を伴わない患者においては長期間NPPVの有用性は乏しい可能性があるが、慢性2型呼吸不全を基礎に持つかどうかを増悪期に判断することは難しく長期間NPPVを導入するか悩ましいことが多い。また安定期COPDに対しては高圧でNPPVを使用することが予後を改善することが近年臨床試験で示されているが、増悪後にも高圧を要するのかははっきりとしていない。これまでのエビデンスから現時点での治療戦略について考えてみたい。

略歴 平成19年3月 京都大学医学部卒業
平成19年4月 淀川キリスト教病院 初期研修医
平成21年4月 神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科 後期研修医
平成24年4月 神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科 医員
平成26年4月 同 副医長

資格 日本内科学会 認定内科医
日本呼吸器学会 呼吸器専門医
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 呼吸ケア指導士

フィリップス・レスピロニクス合同会社

〒108-8507 東京都港区港南二丁目13番37号フィリップスビル

www.philips.co.jp/healthcare

